

私の病気、こうでした！

乳がん

○現在の年齢…38歳
○判明した時…35歳

判明

会社の健康診断で乳がんが判明！
マンモグラフィで異変が見つかり、その後の細胞診で乳がんとなりました。過去の健診では何ともなかったです。自覚症状はなく、指摘された箇所を自分で触ってみてもよく分からないくらいでした。

手術

すぐに手術することに
乳がんは放っておくと怖い、とのことで判明した翌々月には手術となりました。手術までは検査や入院準備、仕事の引き継ぎなどやるのがたくさんで、あつという間でした。手術の前に「もし乳がんがリンパ節に転移していたら乳房全摘」と医師から説明を受けたので、転移がなく温存手術になったと手術後に言われてほっとしました。

療養

乳がんって「その後」が長い！
手術後、傷が治ってきた2か月半後から、再発を抑えるための放射線治療が始まりました。毎日月曜から金曜まで、朝一番で病院に行くと1時間くらいかかり、その後出社する生活が2か月くらい続きました。他にもCTや超音波やMRIといった検査を半年に1回とPET検査を年に1回、それとホルモン注射を12週に1回、これは2年以上経った現在も打っています。とにかく長いです。

お金

がん診断給付金と高額療養費制度で余裕が
治療や検査にかかる費用は公的医療保険制度の適用となっても1回数千～数万円かかります。私が入っていた医療保険はがんと診断された最初にまとまったお金が給付されたので「気持ちに余裕がもててよかったです。病院から渡されたしおりに「高額療養費制度」について詳しく説明されており、先に手続きをするので自己負担の限度額までの支払いで済み、会計はスムーズでした。他にも会社の傷病手当とか、自分には必要ないと思うかもしれないけど、存在を知っておくだけでも違うと思います。



子宮筋腫

○現在の年齢…50歳
○判明した時…40歳（手術は45歳）

判明

10年ぶりの婦人科検診で
40歳のとき、10年ぶりに受けた市の婦人科検診で子宮筋腫が見つかりました。そんなに大きくなく自覚症状もなかったので手術はしないで、3か月ごとに婦人科に通って検査していました。でもその後、引越して通院はしなくなっていました。

手術

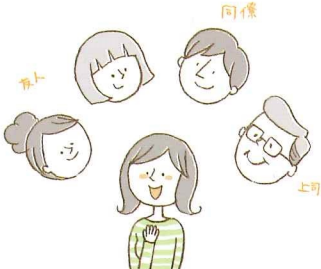
筋腫が大きくなっていった！
45歳のときに生理がづらいので医師に相談したら、筋腫が大きくなっているのが手術することに。筋腫は幼児の頭くらいの大きさになっていて、子宮と片方の卵巣を摘出しました。卵巣を取るとホルモンバランスが崩れて更年期症状が出るというけど、ひとつ残ったおかげでそういうつらさはなかったです。むしろ、取る前の方がつらくて、それがなくなっただけが良かった。本当は、もう少し早く受診していればここまで筋腫が大きくならず、小さな手術で済んだのだろうけど…

療養

助けられ、ゆつくりのんびり療養生活
手術の時は16日間入院して仕事も1か月半休みました。休職で気を遣いましたが上司が会社への事務手続きや人員の手配してくれたのがありがたかったです。ひとり暮らしなので入院には近くに住む友人に付き添ってもらい、退院後は自分のペースで動いてゆつくり慣らしていききました。

お金

カードと保険で助かった！
入院していた病院はカードで決済でき助かりました。体調が悪いとお金をおろしに行くのも大変ですもんね。昔入った医療保険に女性向け疾病の特約がついていたので保険金が多く出て、思いのほか出費が少なくて済み、治ってから自分へのご褒美で海外旅行に行けました。以来火がついてよく旅行に行っているけど、これも元氣だからこそ。今は年に1回の健康診断を欠かさず受けるようにしています。



病気のある生活 ここが大変でした！

日常生活

以前から利用していた生協の宅配が大活躍。(60代・乳がん)
手術後は買い出しにも行けず料理も作れず、外食ばかりに。食費が…(40代・子宮筋腫)
傷口がぶつくと痛んだため、通勤時の満員電車は避けた。(40代・乳がん)

家族

入院中の子供の世話を願うため、保育園の準備や洋服、下着、食べる物など、日常のすべてを人に伝えなければならず、自分の事より準備が大変でした。(30代・子宮内膜ポリープ)
検査結果の説明等は親族が同席ということで、何度か妹に会社を休んで来てもらった。(60代・乳がん)

仕事

会社の人が病気のことを知っているのに全くその話にならず、気を遣われ過ぎるのに疲れた。(40代・子宮頸がん)
検査や通院等で会社を休むことが多く、できる限り迷惑がかからないように仕事をこなす事や、時間の調整が大変だった。(30代・子宮内膜ポリープ)